

夏季の省エネルギーの取組について

令和4年6月10日

省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議決定

近年、我が国の最終エネルギー消費量は減少傾向にあるものの、オイルショック以降、エネルギー消費量が大幅に増加した家庭・業務部門をはじめとして、各部門それぞれ更なる省エネルギーの取組が必要である。大半の化石エネルギーを海外からの輸入に依存する我が国においては、エネルギー消費効率の向上を徹底して進め、エネルギー価格の変動等に柔軟に対応できる経済社会を築く必要がある。一方で、ロシアによるウクライナ侵略などの影響により、世界規模でエネルギー安定供給の不確実性が高まり、原油を始めとするエネルギーの国際価格の上昇による国内の経済活動への打撃や、3月に発生した福島県沖地震等による発電所の停止、真冬並みの寒さによる電力需要の大幅な増大、また悪天候による太陽光の出力の大幅な減少等に起因する電力需給ひっ迫など、エネルギーの安定供給を巡る課題は複雑化・深刻化しており、更なる省エネの取組は急務である。さらに、世界は地球温暖化という共通の課題に直面しており、これらの解決に向けて、国内外のエネルギー消費効率の改善を一層促進することも必要である。

2021年10月22日に閣議決定された「第6次エネルギー基本計画」では、「2050年カーボンニュートラル、また、野心的な2030年の温室効果ガス排出削減目標の実現に向けては、徹底した省エネルギーを進める」、「産業部門、業務部門、家庭部門、運輸部門において、技術的にも可能で現実的な省エネルギー対策として考えられ得る限りのものをそれぞれ積み上げ、最終エネルギー消費で6,200万k1程度の省エネルギーを実現することによって、2030年度のエネルギー需要は280百万k1程度を見込む。」とされた。

これを実現・達成するためには、国民一人一人の理解と行動変容を促進するとともに、産業界や政府、国民が一丸となって徹底した省エネルギーの取組を実施する必要がある。

本会議では従来から、エネルギーの需要が増大する夏季(6月～9月)及び冬季(11月～3月)に、省エネルギーの重要性を踏まえ、取組を浸透させるため、政府自らの取組を確認するとともに、各方面に省エネルギーの取組を呼び掛けてきた。特に、2021年度冬季の電力需給見通しについては、追加的対策を講ずるなどしてようやく最低限必要な予備率を確保するに至ったが、2022年度の夏季も電力需給は厳しい状況が見込まれ、冬季はさらに厳しい状況となることが見込まれている。さらに、前述のとおり、国際情勢が我が国の燃料や電力・ガスの安定供給に与える影響については、予断を許さない状況であり、国内の各主体における省エネへの取組はより一層重要なものとなっている。そのため、2022年6月7日に「電力需給に関する検討会合」を開催して「2022年度の電力需給に関する総合対策」を決定し、電力の供給対策として休止電源の稼働や追加的な燃料調達、再エネや原子力などの非化石電源の最大限の活用など、あらゆる対策を検討し、講じていくとともに、

需要対策として、2022年度の夏季は全国を対象として、できる限りの節電・省エネの協力をお願いすることとした。

そのため、2022年度夏季においては、政府自らが率先して取り組むとともに、これまで以上に各方面に省エネルギーの取組を呼び掛け、新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針に留意し、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例を参考にしつつ、国、地方公共団体、事業者及び国民が一体となった省エネルギーの取組をより一層推進し、特に今夏以降の電力需給ひっ迫に備え、節電対応要請への対応体制の構築を含む事前の準備などに取り組むこととする。



オフィスでも 省エネに 取り組みましょう

小さな積み重ねが大きな省エネ効果に！

暑い夏は、エネルギーの使用が増える季節です。
オフィスでの、省エネへの具体的な取り組みをご紹介します。

エアコン

- ☑ 執務室の冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で室内温度を上げましょう。 **節電効果 約4%**
※熱中症にご注意ください。
- ☑ 日中の日射を避けるために、ブラインド、カーテン、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用しましょう。 **節電効果 約4%**
- ☑ 冷凍機の冷水出口温度を高め、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減しましょう（セントラル式空調の場合）。 **節電効果 約2%**
- ☑ 使用していないエリア（会議室、休憩室、廊下等）は、空調を停止しましょう。 **節電効果 約2%**



照明

- ☑ 可能な範囲で執務室や店舗エリアの照明を間引きしましょう（節電効果は照明を半分程度間引きした際の数値）。 **節電効果 約13%**
- ☑ 使用していないエリア（会議室、休憩室、廊下等）は、消灯しましょう。 **節電効果 約3%**



OA機器 (PC、コピー機)

- ☑ 長時間離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにしましょう。

節電効果 約3%



その他 オフィスでは他にもこんな省エネ対策を行えます

温水洗浄便座

使用状況を確認し、夏は便座や水の温度設定を「切」にしたり、長期間使わないトイレはコンセント自体を抜いたりしましょう。



電気ポット

温度設定を見直したり、省エネモードにするなど、設定を確認しましょう。使わないときには、電源をオフにしましょう。



「省エネ最適化診断」や「ビル/工場の省エネルギーガイドブック2021」などを活用して省エネや節電等に関する取組を検討してみましょう。

shindan-net

検索



※「節電効果」は点灯帯（17時頃）の家庭の電力使用量に対する節電効果の概算値で、地域・時間帯による違いを考慮に入れた全国平均の値です。地域・時間帯により節電効果は変動します。



